

市内農業法人との「“本気”で語ろう会」 会議録

団体名	市内農業法人（4社）
日時	令和3年2月19日（金）10時00分から12時00分まで
場所	鹿屋市役所3階 庁議室
参加者	市内農業生産法人代表者 4名
	市長、農林水産課長ほか

【参加者の意見・要望等】

○農地について

- ・高齢化でリタイヤする農家と遊休農地が増えており、基腐病の影響が拍車を掛けると思う。
- ・農地中間管理事業で農地を流動化しているが、作業効率の良い農地はなかなか手に入らない。
- ・中山間地や畦畔率の高い農地はあるが、作業性が低いので、借りる側にも一定の支援があると流動化も進むと思う。
- ・輝北や串良については、大崎町や岩川の大規模法人の入り作が多い。また、芝の法人による入り作もある。

○貯蔵・物流について

- ・市場取引なら収穫してそのまま出荷できるので鮮度保持のことは気にしなくて良いが契約取引の場合、契約通りの安定出荷をしなければならず、天候等による収穫遅延はできないため、ストックしておき受注に応じた供給を続けなければならない。
- ・安定出荷するためには、冷凍・冷蔵の貯蔵施設が必要である。
- ・取扱量が多いと大きな貯蔵施設も必要となるが、自社で整備するにはコストが掛かりすぎる。既存の冷蔵庫に入りきれないものは都城の貯蔵庫を借りているが、運賃や冷蔵費などのコストは大きな負担である。
- ・レタスはバキューム冷蔵（真空）している。大根やキャベツは冷え切らないので難しい。
- ・皆が共同で使える冷蔵、冷凍倉庫があれば助かる。
- ・10トン車に段ボールを1,000ケース積むのに半日ほどかかる。若い人でも1,000ケース積みこんで配送先で降ろす作業は、高齢者が畑で働くより大変な作業となる。求人がないため給料を増額すると、農家の負担も大きくなる。500kg入る鉄コンテナなどをフォークリフトで積み上げれば1時間で終わる。
- ・国の事業では、コンソーシアムを作って鉄道輸送などの検証事業もある。
- ・物流を改善するため、鉄コンなど出荷容器の整備に係る市の支援も考えてもらいたい。

○新たな作物について

- ・ごぼうも輝北で多く作られている。甘しょに代わる何か新たな作物はないものか、周りの農家からも相談がある。ごぼうについては機械化が進んでいるが、人手がないと

できない作業も多い。

- ・夏場に作付けできるものがない。甘しょ頼みである。
- ・マーケットの動向をみると、大根やキャベツ等の重量野菜は横ばい。ブロッコリーは若者世代が食べだして需要が伸びているが、レタスの大産地である香川県がシフトしており過剰気味だとも聞く。しかし、都会では茎の部分は捨てているので、産廃となってしまう茎の部分をカットして、新しい提供の仕方を考えれば面白いかもしれない。
- ・ブロッコリーの収穫機もできているので、植付時期をずらして機械をシェアリングできれば良いと思う。

○スマート農業について

- ・ドローンを用いた薬剤や液肥散布については、作業時間はかなり早いうえ作業効率が高まり人件費も削減できる。防除効果も問題ない。

○輸出について

- ・輸出する米においては既に国内の産地間で値下げ競争が始まっている。
- ・国がプラットフォームをつくり、価格を一元化して攻めていかないと駄目だと思う。

○収入保険について

- ・基準額（掛捨て保険料）の算定について見直しを行ってほしい。
- ・掛捨て分の保険料は1億の売上があれば100万円となる。農業法人の中には売上が8億あり800万の保険料を支払っているところもある。800万円もあれば、何か別な事業に費用を掛けられる、という声を聞いている。
- ・経営体によっては、現状維持、規模縮小、規模拡大など様々なパターンがあるため、規模やパターン別に応じた基準額を設定してほしい。
- ・経営を継続していくには、BCPプラン（事業継続計画）を作る必要があると考える。農業の分野での取組はまだ浸透していないが、取引先との契約維持の戦略にもなるので、行政と一緒に考えていきたい。

○労働力・機械化について

- ・労働力として外国人技能実習生に頼っているが、コロナの影響も考えると、今後長い目で見れば安定的に確保できるか分からない。だからこそ、機械化でさらに効率性を上げていくことも必要だと思う。
- ・これまでは個々の農家が機械導入を行っているが、年間の利用頻度や作業の専門性などを考えると、収穫機など専門的な機械についてはシェアリングできるような仕組みができないものか。特に、新たな作物を導入する場合等にいきなり機械投資するより、シェアリングするシステムがあると便利である。
- ・国内メーカーの機械は高額だ。ヨーロッパや韓国と比べても性能はほぼ一緒なのに、国内メーカーは補助金が前提にあるのか、2～3割高くなっている。

○有害鳥獣に関すること

- ・耕作放棄地が猪の住処となっており、電気柵を設置しても畑に入り込んでくる。
- ・契約栽培（大根・人参）は、契約に基づいた面積以上増やすことが難しいなか、増産できるのは甘しょだけになってしまうが、猪の被害を受けやすい。

○コロナ下の契約出荷に関すること

- ・大根やキャベツを外食産業に契約出荷しているが、相手先から単価を下げてもらえないか相談を受けている。
- ・今年の1～2月に関しては、外食産業との取引も厳しい状況にある。
- ・高収益作物次期作支援交付金により他県も含め生産が維持されている反面、コロナによる消費低迷により生産過多の状態となっている。

○その他

- ・夏場は耐候性ハウスによりきゅうり、冬場はレタスを生産。きゅうりは台風等の気象災害を回避できれば、ある程度の売上が見込める。レタスについては暖房が不要なので、重油代の経費を掛けなくて済む。
- ・イチゴはグローバルギャップを取得しており、取引先からの引き合いが強いが、増産が難しい。
- ・鹿児島は夏場は農作物の栽培が難しいことから、継続的で安定的な出荷のため、冷涼地に農地を保有しリレー出荷を行っている。
- ・離農した者が保有している農機具の中古情報などがあると助かる。
- ・コスト的には人件費と輸送が大きい。

【市長】

○農地について

- ・農業の一丁目一番地は農地だと思う。水田も畑も大規模化しないといけない。
- ・条件不利地を耕作する場合の支援というのも良い考えだと思うが、基盤整備、大規模化して、借りたいと思える農地にしないといけない。
- ・農地の流動化に関しては、所有者と利用者それぞれの印鑑が必要であることが煩わしいので、口約束による貸し借りになってしまう。利用権でやり取りができる仕組みにする方が良いと思う。

○貯蔵・物流について

- ・流通は大事なところであるが、行政がなかなか手を出せない分野だ。
- ・保管、冷蔵、冷凍など青果は出荷調整、鮮度保持を行うことで値段の低減を抑えるなどリスク回避ができる。
- ・農作物は作るだけでなく高く売らないと意味がない。高速道路など道は良くなっても都市圏から遠いので市場情報などを見ながら出荷調整する必要がある。
- ・補助事業を活用するなどして貯蔵施設を整備し、利用する農家から賃料をもらって維持管理、運営していくことがビジネスとして成立するか、研究しないといけない。

- ・ J Aや農家も一緒になって機械銀行や貯蔵施設などを研究、試算、シミュレーションして、皆さんの負担や効果などがどうなるのか考えないといけない。
- ・ 民間の加工業者や経済連の加工センターなど、加工業者は立地してもらっているが、貯蔵や物流の民間事業者の誘致が必要である。
- ・ 農地の大区画化や貯蔵、物流倉庫など、個人ではできない農業のインフラ整備が必要だと思う。

○新たな作物について

- ・ 夏の作物がないから甘しょ一辺倒になっている。今はごぼうがあるくらい。
- ・ ごぼうは輝北から吾平までであるが、選果場は志布志市にある。これだけの産地であるのに、鹿屋市に選果場がないのはおかしい。茶とピーマンについては選果場の精度を上げないといけない。
- ・ 民間の加工業者や経済連の加工センターもできた。春ジャガイモを6月に収穫すれば、後作にごぼうが作付できる。B品や外品を取ってもらえれば、少しでも売上につながる。耕種農家と連携してもらえればありがたいと考えている。
- ・ 年間を通じて土地利用率を上げるためには、どんな組合せをすべきか皆で考えていかないといけない。
- ・ 肝属中部畑かんは、国営だけで600億円、県の末端のパイプラインなども合わせると800~900億円かかっている。しかし、水利用の品目が変わらない。畑にあるのは甘しょと飼料だけだ。干ばつに強いから甘しょであるわけだが、水を使うのは植付の時くらいだ。笠野原で一番水を使っているのは茶だろう。
- ・ 焼酎会社やでん粉工場もあり鹿屋市の産業であるので、甘しょが無くなるのは困ることだが、水利用という観点から、もう少し付加価値の高い作物にある程度の転換も必要だと思っている。

○スマート農業について

- ・ 市でも環境制御装置やドローン導入に関する支援も行うこととしている。環境制御装置はデータを取るのに期間がかかるが、ドローンは導入効果がすぐに発揮できる。
- ・ 耕種の大規模農家などはそのような事業をぜひ活用してほしい。

○輸出について

- ・ 国は輸出の戦略作物として28品目を指定し、2030年には5兆円を目標としている。鹿児島で言えば黒牛、黒豚、ブリ、カンパチ、甘しょなど。
- ・ 輸出は今後重要となってくる。耕種においてはこれまで柑橘類の輸出はあったが、野菜はなかなかだ。鹿屋市からは甘しょがあるくらいで、加工品との抱き合わせでの輸出もある。
- ・ 輸出はコストもかかりリスクもある。所得を考えた時、保冷や航空運賃などの費用を考えると輸出はしないほうが良い、という農家もいる。まずは国内の足場を固めないといけない。

○収入保険について

- ・現在、50件くらい加入しているようだが、鹿屋市の中でそれだけの件数しか加入していないということは、農家側にとって制度的な欠陥があるのかもしれない。
- ・掛捨て保険料に1～2年間助成する手もあるが、持続可能性がなければならない。一過性の対策ではいけない。
- ・農家の実態や痛みをしっかりと受け止め、鹿屋から日本の農業の仕組みを変えていく、という思いをもつことが大事だ。しっかりした要望を上げていく必要がある。

○労働力・機械化について

- ・機械化して人がやりたがらない分を機械にしてもらおう。3Kの職場を機械で解決していかないといけない。
- ・昔はJAの機械銀行（リース銀行）が多くあったが、今はほとんどない。年に1～2回しか使わない機械でも、個々の農家が持っている。機械銀行の場合は時期も重なるうえ、雨などでスケジュールも組みにくい。同じ機械が複数台必要だろう。
- ・昔の国の補助事業は、3戸以上の任意組織などによる共同利用が条件だったが、今は個人で使える補助事業もある。それは逆に農家へ負担をかけているようにも思える。
- ・汎用性の高い機械は個々に持っていたほうが良いと思うが、専門的な機械についてはシェアリングするのは良いかもしれない。
- ・機械化で解決できるような支援も必要である。

○有害鳥獣について

- ・耕作放棄地や有害鳥獣対策については、抜本的な解決策を見いださないといけない。
- ・追い払いや電柵の設置などやっているが、対策が追い付いていかない。
- ・猟で生計が立てられるような仕組みを作ることができれば良いと思っている。
- ・サルについてもGPSを付けて行動調査を行うこととしている。
- ・生姜や胡椒は鳥獣も食べないということなので、山裾の緩衝帯として植えるのも良いかもしれない。農家所得につながれば尚よいことだ。

○その他

- ・農業はすそ野の広い産業だと思っている。飼料、肥料、運送、機械メーカーなど関連産業がたくさんある。農家はそのような人たちのために働いている節もある。
- ・環境制御装置があるので、スマート農業が定着すれば労働力の低減もできる。露地野菜は一発勝負の場合もあるが、ピーマンの場合は11月から5月まで収穫が続くので、良い悪いはあるかもしれないが安定的だと思う。共販であれば収量を上げることだけに集中すればよい。
- ・離農者等の機械や施設などは農業未来バンクで登録、紹介している。情報量をもっと増やしていかないといけない。登録の推進については、各種会合での紹介や、JA、関係機関の窓口にパンフレットを置くなど工夫する必要がある。

- ・個人農家と法人経営体とでは、問題意識の視点に違いがある。計画性、将来性をもち、雇用を抱えている法人の支援にどのようにコミットできるのか研究していかないといけない。
- ・本日の話ででた、機械のリースや土地の流動化、貯蔵、流通、次の作物など、一つ一つ問題点を明らかにして、原点は「みんなでやろう」という意気込みできめ細やかな制度を作り上げないといけない。